

(第3種郵便物認可)

報

# コロナワクチン 待機時間にフレイル診断 米子、高齢者の接種会場

新型コロナウイルスワクチンの高齢者向け接種に合わせ、米子市の集団接種会場でフレイル(虚弱状態)の診断が実施される。健康観察の待機時間を活用した独自の取り組みで、事業主体の市は外出を自粛しがちな65歳以上の心身の状態をつかみ、介護予防指導や運動処方にも生かす。

(田淵浩平)



集団接種に合わせ、フレイル診断が実施される米子市福祉保健総合センター(同市錦町1丁目)

らは、高齢者を集めた健康講座や保健師による訪問指導を通じた現状把握と対策は難しいため、接種に合わせた診断を計画した。

評価システムの開発を手掛けるコンパス(米子市西福原4丁目)と連携して実施。質問に答えるかどうかは任意で、高齢者向け接種は市福祉保健総合センター(同市錦町1丁目)で24日に始める。

市福祉保健部の大橋賢二部長は「接種を円滑に進めつつ、フレイルに関心を持ってもらい、要介護予備軍への効果的な対策につなげたい」と話した。

ワクチン接種後の15分以上の待機時間に一階段を手すりや壁をつたわずに上っていますか」など25項目を質問。「疑いあり」「一歩手前」「可能性は低い」の3段階で判定し、結果は

保健師による個別相談の案内を添えて後日郵送するなどの方法を検討している。

フレイルは心身の活力や生活機能が低下し、後に要介護となるリスクが高い状

態。高齢期に生じやすい。

市は新型コロナウイルスの感染が拡大する中、外出や運動の機会が減り、フレイルに陥る高齢者が増加しかねないと懸念。

一方で感染防止の観点か

山陰・社会  
sanin